

土木学会四国支部「土木紀行」No.68(愛媛県)

～広瀬霞再生プロジェクト～

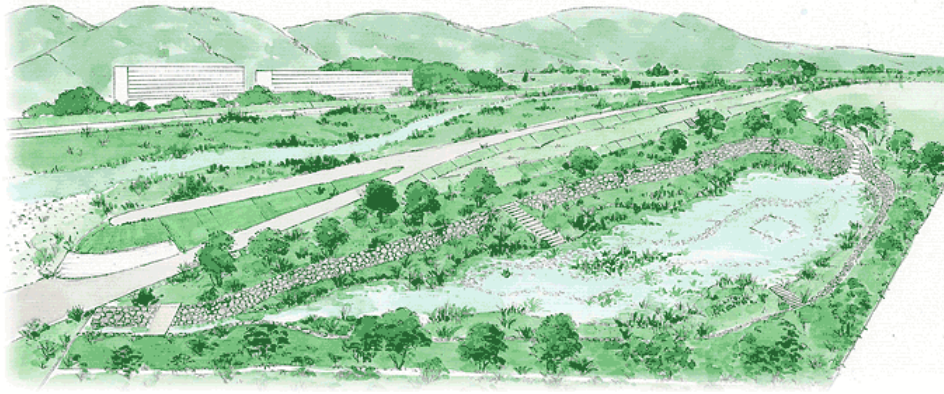
愛媛県松山平野を流れる重信川中流部(河口から約15km地点)には、広瀬霞と呼ばれる霞堤があり、過去にあった広瀬霞の周辺は、植生や樹林に覆われ湿地的環境にあり多種多様な動植物が生息・生息していました。



重信川の現在の瀬切れの状況と広瀬霞の位置



この広瀬霞より上流では、河川の瀬切れ発生して動植物が生息するには厳しい環境にあったにも関わらず、広瀬霞の周辺には自然豊かな泉が存在し、これらの泉は水路を介して生態系的なネットワークを形成していました。これらのネットワークと重信川本川を繋ぐ役割を広瀬霞が果たしていました。



広瀬霞の目標とする湿地環境



広瀬霞周辺の整備状況(まだ霞堤内の水質状況は良くない)

しかし、近年、広瀬霞の霞堤内は盛土によって湿地環境が失われ、ノイバラやセイタカアワダチソウなどの外来植物が繁茂しており、また、不本意に捨てられたゴミの影響により水質が悪化している状況で、かつての豊かな自然環境が見られなくなりました。また、湿地環境が失われたことにより、多くの貴重な動植物の生息環境が激減しています。また、湿地環境の変化により泉のバイパス機能も失われている状況です。

このような状況の中、霞堤本来の治水機能の保全とあわせて、失われた湿地環境の再生を行うプロジェクトが立ち上がりました。このプロジェクトの方針は、広瀬霞、河畔林を再生すること、自然豊かな湿地環境を確保すること、霞堤内の治水機能の保全、絶滅寸前の動植物の再生、魚類の移動空間の確保が挙げられています。

現在では、霞堤内の環境が良くなり、また治水対策と併せて霞堤内の親水空間としての利用もされるようになってきましたが、まだまだ水質などの改善の余地があると思いました。

調査・執筆担当：愛媛大学工学部環境建設工学科 4 回生 仲健太郎

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>